



Figure 6: The extinction of men: decay of the Y-chromosome

Adam's Curse, 2004

「男性の宿命」

名誉院長 西田 敬

滅多に目にするものではないが、一度でも chromosome analysis (染色体分析表) を目にすれば、誰しも幾分不安になる。22対の常染色体にXとYの性染色体が配列される。特にY染色体の瘦細り様が厭でも気に為る。まるで呪われている。アメリカの推理作家、Ellery Queenらの代表作が「Yの悲劇」。それより真に迫った推理、詰り科学的で不吉な予言、言い換えればY染色体の衰退をOxford大学Bryan Sykes教授が傑作“アダムの呪い”の末尾で図示した。世の男性諸君の終焉、生殖能力は衰退の一途だったが、西暦5000年を境に、遂には略消滅する(上図)。

冗談では無いゾ。女性だけで如何すりや子孫が残せるんじゃない! 詰り、地上での繁栄を謳歌して居た、人類の歴史も茲が年貢の納め時、これにて一巻の終わり。確かにcolchicine処理した染色体分析表(chromosome analysis)ではY染色体が無残にも歪に瘦細る姿が如実。

抑々、脆弱なY染色体に縋るのが間違い。雌雄の作成は有性生殖する生き物の宿命、知恵の絞り処。

海亀は砂浜に穴を掘って産卵する。孵化する温度で雄雌を決定する。34℃で雌、26℃では全て雄になる。鱶は逆に暖かいと雄で寒けりや雌。この辺が恐竜絶滅の原因かも知れぬ。詰り、氷河期などで地球温度が冷え込めば雄、或は雌許が誕生する。どちらでも構わぬが一方の性だけでは運命は極まった。繁殖できない、種の保存は叶わぬ。

季節ですな。河豚鍋には思わず目を細める。茲で御注意! 雄(白子)は珍味、雌(卵巣)は猛毒tetrodotoxin。雌雄は、命懸けで、峻別せにゃならぬ。手段、方法は? 驚く勿れ、個体差が筆頭。一般に雌が大きい。次が熟練した調理師(板前さん)の触診。触診あるいは内診による卵巣の消息が当に為らん事は婦人科医なら先刻、御承知。詰り、経腔超音波法が発展した所以。お得意の遺伝子診断は? amhr II 遺伝子(antimüllerian hormone II)における雌雄特異的な多型を標的として、トラフグに属する河豚の雌雄を鑑別が可能であることを見出した。それじゃ、河豚鍋は冷めてしまい、てっさ(鉄砲: 河豚の刺身)も捲れて、干上がっちゃう。トラフグ属に属する河豚の雌雄を判別する方法は在るにはあるが、試薬のキットは無い。彼岸までは未だ猶予がある。いっそ、この際、白子は已めにして、無難なところで、冷奴に焼き豆腐で如何だ?

参考資料
<http://journals.plos.org/plosgenetics/article?id=10.1371/journal.pgen.1002798>
A Trans-Species Missense SNP in Amhr2 Is Associated with Sex Determination in the Tiger Pufferfish, Takifugu rubripes (Fugu)

